

令和元年（2019年）11月7日
政策創造課長 竹之内
電話 0467-23-3000（代表）
内線 2791

第7回プラチナ大賞 優秀賞の受賞について

株式会社イトーキ（以下「イトーキ」という。）が中心となり、本市と連名で応募した「まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境創り～」が、第7回プラチナ大賞において、優秀賞を受賞しました。



表彰式全体写真

最終審査に進んだ13団体及び奨励賞受賞の2団体



写真

（左から順に）

NPO法人 タウンサポート鎌倉今泉台 青木 清

鎌倉市 市長 松尾 崇

イトーキ株式会社 代表取締役社長 平井 嘉朗

一般社団法人 高齢社会共創センター 吉田 涼子

1 受賞内容 第7回プラチナ大賞優秀賞～リーディング賞～

「まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境創り～」は、イトーキと鎌倉リビングラボが進めたテレワーク家具の開発の取組、またその取組を通じて目指す「住み続けられる地域」に向けた活動の報告を行ったものです。

全50件の応募の中、第一次審査を通過した13団体のうち、2団体が大賞に、他の11団体が優秀賞に選ばれました。

鎌倉リビングラボについては、産官学民連携で、住民ニーズに応じた商品開発が評価されたものです。

なお、鎌倉リビングラボの先進的な商品開発、価値創造が評価され「リーディング賞」との副題をいただきました。

2 主催 プラチナ構想ネットワーク

会長 小宮山 宏（株式会社三菱総合研究所理事長、東京大学 28 代総長）

幹事長 岩沙 弘道（三井不動産株式会社代表取締役会長）

自治体・大学・研究機関・企業・海外都市のネットワークからなる全国規模の連携組織です。エコで、高齢者も参加でき、地域で人が育ち、雇用のある、より質の高い人生や生活を楽しめる快適な社会を、未来のあるべき社会像「プラチナ社会」と定義し、その実現を目指しています。平成 31 年（2019 年）3 月時点の会員数は、158 自治体、175 法人等。

3 プラチナ大賞とは

プラチナ構想ネットワークが主催する「プラチナ大賞」は、未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的に創設されました。イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または実現しようとしている全国各地の取組を「賞」というかたちで称え、広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図っています。

※プラチナ構想ネットワークのホームページにおいても、本件について発表される予定です。



写真 最終審査発表プレゼンの様子

（登壇者左から順に）

イトーキ株式会社 代表取締役社長 平井 嘉朗

鎌倉市 市長 松尾 崇